

No.67 2015, Nov.

11 月・生神金光大神大祭号

<http://city.hokkai.or.jp/~mtamaki/kyokai>

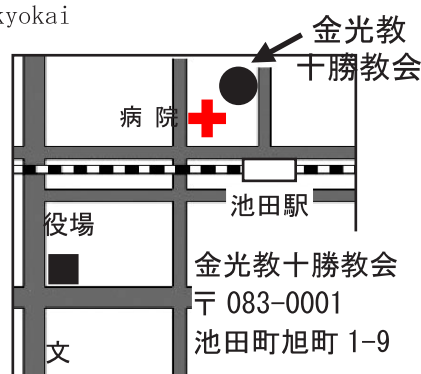


☎ 015-572-2322
fax 015-572-4213

十勝教会



だより 67



平成二十七年 生神金光大神大祭をむかえて

金光教十勝教会



今から百五十年以上昔、幕末から明治にかけてのことです。備中国大谷村に赤沢文治さんという方がいらっしやいました。文治さんはもと香取^{かんどり}という小さな農家の生まれでしたが、十二歳の時に赤沢^{あかさわ}といふこれまた小さな農家の養子となられたのです。その後、何事にも実意で

丁寧な文治さんの働きもあって、赤沢家は村でも指折りの有数な農家になっていきます。

その文治さんですが、実の両親が神仏に篤^{あつ}かったこともあり、自身も神仏を篤く敬つておられました。節句のときの神事、仏事はもとより作事などを行うたびに神事を仕え、神様に作事の許しを願い、無事に終われば御礼をしていました。

しかし、文治さんの家では、家業の隆盛とは裏腹に家族が次々と亡くなっていきます。家の改修や改築をするたびに子供たちが死んでいくのです。さらには当時の農家にとってトラクター代わりであった牛が毎年

死んでしまいます。当然、文治さんは医者に診せ、^{きとう}祈禱をしてもらうなど神仏に頼りますがなかなか状況はよくなりません。崇神の祟りを恐れた当時のことです。文治さんは家の改築などを行う前には必ず神事を仕えてもらい、あるいは占いで日柄や



吉方を見てもらうなどをしていたにも関わらず、作事が終わるたびに凶事が次々とおきてしまっていたのです。文治さん自身、後に、「医師にかけて治療いたし、神々願ひ。祈念祈禱におろそかもなし。神仏願ひてもかなわず。いたしかたなし。残念至極、始終思ひ暮らし」と述懐しているように、神仏に頼つても不幸が続くことを残念と思つて暮らしていました。

○

そうこうしているうちに、今度は文治さん自身が命に関わる大病に罹^{かか}つてしまいます。今日明日を持ちこたえられるかどうかというそのとき、家族は神仏にご祈禱をし、文治さんの回復を祈ります。「日頃から篤く神仏

を敬っている文治さんが、なぜこんな目に遭うのか」。家族たちは訴えます。皆の正直な思いです。しかし、病床にあった文治さんは「神仏に願つても厄災が続くということは、ひょっとしたら、神仏に対してまだ落ち度があるのではないか」、「家の改築をするときでも自分の都合で神様に願ひ、占いをしてもらつて、日取りや吉方を見てもらつていました。が、私は一凡夫であり、凡夫であるため、何か神様のご都合にあわなことがあつたかさえもわかりません。」と正直に自分の思いを語られ、お詫びをされたのでした。

「こんなに神様、仏様を大事にしているのになんの御利益も無いなんて」と神仏に対して否定



立教聖場 復元された教
祖様の広前です

的になってもおかしくくないな
か、文治さんは、「神様のご利益
がないなら、その非は自分にあ
る」、「神様のご都合に沿わない
行いをした自分が悪い」、そして
「何が神様に対して無礼になるか
さえも分からない」という思い
に至ったのです。

病床での文治さんの正直な吐
露に「其方は行き届き」と感心
された神様の験(ご利益・おかげ)を
いただき、文治さんは回復され
ます。そして以降、神様のご都
合に沿った氏子としての働きを

進められることになりました。
その赤沢文治さんこそ後の教祖
様、生神金光大神様であり、文
治さんの正直な吐露に感心され
たのが天地金乃神様でいらっ
しゃいます。

○

教祖様は生まれながらにして
教祖であつたわけではありません
ん。一農民の子としてお生まれ
になり、普通の農民として半生
を送られていました。農家とし
ては成功者であられました。が、
家内には不幸が続き、その中で
教祖様は人の難儀の元は「何事
も神様のご都合を知らずに、人
間の都合だけで取り進める」こ
とにあると気づかされたのです。
元々信心深い教祖様ではありま
したが、そのことに思い至られ

るまでには肉親五人、飼い牛二
頭の死という辛い経験をしなけ
ればなりませんでした。

我々は人間の難儀の大元が何で
有るのかを教祖様が残してくだ
さった御教えを通じ知ることが
できます。教祖様のような辛く
悲しい体験をすることなく、天
地金乃神様のお働きの中に生か
される氏子としての生き方を教
えていただくことができます。
今、私たちが信心をさせていた
だけののは教祖様あつてのこと
です。その教祖様へ御礼を申し、
教祖様が残された御教えをしつ
かりといただき、教祖様の悲し
い体験を無駄にすること無く天
地金乃神様のご都合に沿った生
き方を進めさせていただきま
しょう。

教会 日 誌

平成 27 年 8 月 1 日から 10 月 31 日まで

8 月 2 日 歌志内市、Y 家、式年祭。

8 月 2 日 美幌町、T 家、二柱霊神式年祭。

8 月 7 日 北海道教区少年少女キャンプ「みどりのひろば」、白金温泉。3 名参加、9 日まで。

8 月 9 日 帯広市、S 家、二柱霊神式年祭。

8 月 10 日 池田町、N 家葬儀式、会葬参拝。

8 月 16 日 教会創立記念祭、布教功労者報徳祭。
(次ページに写真)

8 月 22 日 士幌町、M 家、二柱霊神式年祭。

8 月 27 日 札幌市、もいわ教会長葬儀式、会葬参拝。

9 月 6 日 音更町、M 家、式年祭。

9 月 10 日 金光家先祖祭、式年祭、みよ子先生参拝。

9 月 21 日 札幌市、T 家、式年祭。

9 月 23 日 秋季霊祭。(次ページに写真)

10 月 3 日 道東地区教会連合会役員会、副教会長出席。

10 月 9 日 幕別町、K 家、二柱霊神式年祭。

10 月 10 日 帯広市、M 家、感謝祭。

10 月 12 日 足寄町、T 家、旅館民宿開業準備奉告祭。

10 月 18 日 釧路教会大祭、交流参拝。

10 月 25 日 網走教会大祭、交流参拝。

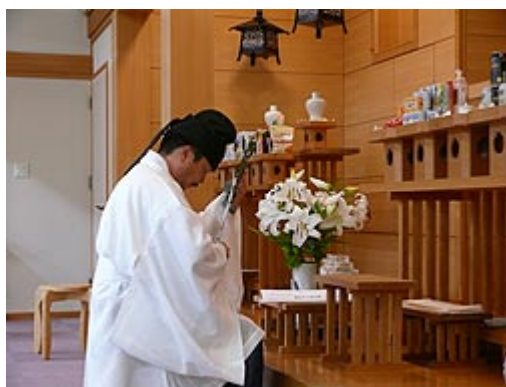


写真
上 教会創立記念祭
中 布教功労者報徳祭
下 秋季霊祭



教会が設立されて無事 95 年を迎えることができました。95 年間、天地のお広前にお使いいただき、支えてくださった神様と先人たちへのお礼の祭典を仕えました。



秋の霊祭の後はおはぎのお直会をいただきました。

十勝教会この後の教会祭典と行事

薫別講社生神金光大神大祭	12月 5日(土)	11時
越 年 感 謝 祭	12月31日(大晦日)	13時30分
平成28年・元日祭	1月 1日(元日)	13時30分

生神金光大神大祭祭典次第

金光教十勝教会

- 先 祭員着席
 次 拝 礼
 次 神前拝詞奉唱
 次 取次唱詞奉唱
 次 祭主祭詞奏上
 次 祭主玉串奉奠
 次 天地書附奉体
 次 教会長玉串奉奠
 次 参拝者代表玉串奉奠
 次 金光大神賛仰詞奉唱
 次 親神のよざしのままに斉唱
 次 拝 礼
 次 祭員退下
 次 吉備舞奉納「身をきよめ」
 ○ 御神伝奉読・講師紹介
 ○ 教 話 副教会長 先生

かみひと

神人あいよかけよの生活運動

願 い

御取次を願ひ頂き

神のおかげにめざめ

お礼と喜びの生活を進め

神心となつて人を 祈り

助け 導き

神人の道をあらわそう



KONKOKYO

金 光 教

♪親神のよざしのままに♪

- 一、親神の
わが生神
取次の
代々を経て
神からも
両方の
親神の
生神を
三、神のひれ
照り映えて
取次の
とこしえに
よざしのままに
金光大神
道立ちしより
今につづけり
氏子らからも
恩人なりと
のらし給える
讃えまっらん
木綿崎山に
日の光なす
道の霊光を
仰ぎまっらん

食 前 訓

食物はみな人の命のために

天地乃神のつくり

与え給うものぞ

何を食うにも飲むにも

ありがたく頂く心を忘れなよ

食 後 訓

体の丈夫を願え

体をつくれ

何事も体が元なり